

各位

大阪自然環境保全協会と日本野鳥の会大阪支部はかねてから協力して、2025 大阪関西万博開催地の夢洲・大阪湾内の埋め立て中の新島フェニックスなどの合同調査や、シンポジウムや写真展などの共同開催をしております。

去る 2024 年 11 月、大阪市立自然史博物館における大阪自然史フェスティバル 2024 の中で、シンポジウム「みんなで守ろう 大阪湾岸の自然～シギ・チドリの渡来地を取り戻そう～」を共催し、バードリサーチ守屋様、日本野鳥の会葉山様にご登壇いただき、その中で、「大阪湾岸に生物多様性豊かな干潟・湿地を取り戻すための共同宣言（案）」を発表するにいたりました。

その後、後援団体とも文章推敲を重ね、1 月 15 日に正式発表することになりましたことを、貴団体の皆様にお知らせするとともに、ぜひ賛同していただきたく、ご案内させていただきます。（宣言文はこの文書に添付）

宣言文をお読みくださり、賛同していただける団体様は、[大阪自然環境保全協会 office@nature.or.jp](mailto:office@nature.or.jp)に、【共同宣言】というメールタイトルで、団体の正式名称・代表者名・URL・連絡先などをお知らせください。2025 年 1 月 15 日にプレスリリースを出しますので、なるべく早くご連絡いただくと幸いです。（もちろんその後でも、順次ホームページに記載させていただきます）

最近、万博後の夢洲に総合エンターテイメント施設をつくと府知事が発表しました。万博の持続可能性有識者委員会が 1 月 16 日に開かれると聞きます。2025 年、どんどん失われる自然を回復方向へ反転されるため、あわただしいお願いになり恐縮ですが、どうぞ、ご協力のほどよろしく願いいたします。

【参考】

◆シンポジウム「みんなで守ろう 大阪湾岸の自然」

アーカイブ動画 → <https://www.youtube.com/watch?v=2xm-LiJt7JA>

◆大阪自然環境保全協会＞夢洲の未来の自然環境を考える＞共同宣言

→ <https://www.nature.or.jp/action/yumeshimairai/declare2025.html>

※個人で賛同される場合は上のページから記名フォームのご記名をお願いします。

2025 年 1 月 8 日

大阪自然環境保全協会 夢洲生きもの調査グループ
日本野鳥の会大阪支部

大阪湾岸に生物多様性豊かな干潟・湿地を取り戻すための共同宣言

私たち環境保護団体は、陸域と海域をつなぐ沿岸部で、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せるというネイチャーポジティブの実現のために

1. 残す： 大阪湾岸に現存する自然環境は保護エリアとし、その維持保全に努め、未来に伝える
2. 創る： すでに開発し劣化した湾岸部においては、遊休地や低利用地などを自然回復の候補地に選定し、早期に自然海浜・干潟や湿地環境を戻す造成に着手する
3. 広げる： 海岸や海上の埋め立てを伴う事業については、生物多様性の回復を第一優先課題として、開発面積と同等以上の湿地や干潟の造成を行うことを、関係機関に働きかけるとともに、あらゆる機会に、ネイチャーポジティブの理念を広げ、行政・企業・NGO・民間団体などの組織や市民とともに、連携・協力の場を広げ、知恵を出し合っ、大阪湾岸に生物多様性豊かな干潟や湿地をとり戻していくことを、宣言します。

【趣旨説明】

1) ネイチャーポジティブとは

「自然と共生する社会」の達成に向けた2030年ミッションとして掲げられているネイチャーポジティブとは、自然を保護するだけでなく、社会・経済全体が生物多様性の保全に貢献するよう変革させ、自然を回復軌道に乗せていく考え方です（「生物多様性国家戦略2023-2030」）。

また、「昆明・モンリオール生物多様性枠組（GBF）」（2022年12月）では、ネイチャーポジティブ実現のための一つとして、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする「30by30目標」を掲げています。わが国では国立公園や自然共生サイト制度を活用し、保護地域拡充に向けて努力しています。

大阪府域の現状の保護エリア（条例等に基づく地域指定の実面積）の割合は、陸域で府域面積の約24.6%です。しかし湾岸部においては、現在大阪府の海岸線全長の1%程度しか自然海岸がなく、生物多様性の損失を食い止め回復させるためには、相当思い切った取り組みが必須となります。

2) 沿岸生態系を保全する意義

沿岸域の自然生態系を指標するシギ・チドリ類は、世界的に減少が指摘されており、日本に渡来する個体数も激減しています。その大きな要因の一つは生息地である干潟や湿地の消失と考えられます。渡りをする水鳥たちは、その生息環境を開発で奪われ、埋め立て途上の水辺などを代替地として命をつないできましたが、その環境は不安定です。

大阪湾岸は「東アジア・オーストラリア・フライウェイ」の重要な中継地です。渡り鳥の生息地の保全は、国際的にも大きな渡りのルートを維持し、アジア地域の生物多様

性保全にもつながります。

また、シギ・チドリ類を守ることは、その渡来地である湿地や干潟などの自然環境を守ることであり、それは生物多様性に富んだ地域の財産を守ることでもあります。海岸線の自然は風の道をつくり、ヒートアイランド化を軽減し、自然との触れ合いや環境教育の場としての役割も担い、人間にとっても貴重な場所を守ることにつながります。

3) 大阪湾岸のもつポテンシャル

大阪湾は古くから「魚庭（なにわ）の海」と呼ばれたほど生物多様性に富み、私たちはその恩恵を受けてきました。そして、瀬戸内海の東端に位置する大阪湾は、長年シギやチドリなどの水鳥の渡りの中継地や越冬地となっていました。

「南港野鳥園」は、50年以上前、埋め立て中の湿地に多くのシギ・チドリ類が渡来していたことから、その場所を守ってほしいと願う市民が立ち上がって作られました。この野鳥園は渡り鳥のために作られた人工干潟として、全国的にも先駆的な事例のひとつとなっており、近接する夢洲とともに大阪府の「生物多様性ホットスポット A ランク」に選定されています。

4) 現在の危機的状況

2025年大阪・関西万博の開催地である夢洲は、20年以上にわたり、コアジサシやシギ・チドリ類など渡り鳥の大阪湾最大の渡来地となっていました。万博建設工事中の2023年5月から2024年9月にも、残されたわずかな湿地で、レッドデータブックに記載の鳥類51種を含む71種の鳥類が確認されています。しかしこの場所は、万博で「つながりの海」として利用された後、万博閉会後には大阪市によって完全に埋め立てられる計画です。

大規模な渡りのルートである大阪湾での渡来地の消失は、日本を通過するシギ・チドリ類の絶滅を加速させます。「いのち輝く未来社会」を目指しているはずの地元・大阪では、生物多様性の保全や維持についての配慮は全く図られないまま、渡り鳥たちはまた一つ貴重な生息地を失おうとしています。それは、私たちが生物多様性ホットスポットという貴重な財産を失うことも意味しており、これは、ネイチャーポジティブの理念に完全に逆行しています。

以上

2025年1月15日（正式宣言日）

公益社団法人 大阪自然環境保全協会

日本野鳥の会大阪支部

公益財団法人 日本野鳥の会

公益財団法人 日本自然保護協会

認定NPO法人 バードリサーチ（予定）

公益財団法人 世界自然保護基金（WWF）ジャパン（順不同）

賛同表明団体：順次、公表の予定